

2023



新クトゥルフ神話TRPG

シナリオコンテスト2023 佳作

まがりまがられ

友人から送られてきた不気味な動画。それは古き信仰に隠された呪わしい真実へとつながっていた。

家居吟次



概要

2023年10月、実咲市にて。

探索者たちは友人の星奏太との待ち合わせのため、駅前に集合していた。

しかし、奏太は予定の時間になっても姿を現さない。奏太に連絡しようとしたところで、彼からメールが送られてくる。

メールには、奏太が山奥で怪物に襲われる一部始終を収めた動画が添付されており、本文の内容は、彼が市内の平渡村にいることを示すものだった。

奏太の安否を確認するべく、探索者は平渡村に赴き、調査を進める。奏太の足取りを追い、彼と直近まで連絡を取っていた人物と接触する中で、探索者は驚くべき事実を知る。

村にはシュブ=ニグラスを枉様と呼んであがめる異形の従者たちが潜み、彼らによって奏太を含む幾人もの人間がさらわれていたのだ。彼らは人々を枉様にささげる儀式を行ない、邪神の顕現を果たそうとしている。

探索者は奏太たちを救出するべく、従者たちへの対抗手段を獲得し、儀式の完遂を阻止しなければならない。

シナリオの舞台は、東北地方某県に位置する「実咲市」だ。

秋も深まる2023年10月のある日、探索者は友人である「星奏太」とドライブに出かける約束をしており、実咲駅前待ち合わせをしている。探索者のうち、最低でも1人が普通自動車免許を有していることが望ましい。

戦闘が想定されているため、そうしたことが得意な探索者は活躍する場面があるだろう。

Keeper Information 2. キーパー向け情報

実咲市の南部にある平渡村は、「枉様」への信仰が残る地である。

かつて養蚕が盛んに行なわれていた平渡村では、蚕が神としてまつられていた。この神格は旧き神に類するものであり、信仰と引き換えに、邪なる者たちから人知れず村を守護していた。

しかし、明治中期に発生した長期に及ぶ冷害が状況を一変させた。蚕の餌となる桑や、人間の食料である農作物の不作が続き、村は貧困と飢餓に陥ったのだ。

政府からの十分な支援を得られなかった村長は、この状況を打開する策を、国内外から取り寄せていた農業の技術書に求めた。しかし、一向に事態が改善しないことへの焦燥から、次第に魔道書の類にまで手を出すようになる。

そんな中、とある魔道書の一節が村長の目に留まった。「豊穡の祝詞」と題されていたその節には、邪神シュブ=ニグラスとの接触を可能とする祝詞が記されていた。

迷うことなく祝詞を唱えた彼は、使者である黒い仔山羊を通じ、かの邪神からの思念を受け取った。新鮮な動物の血肉を求められた村長は、すぐさまシュブ=ニグラスへとささげ、見返りとして農作物の実りが村にもたらされた。

村人たちは飢えから脱し、養蚕業も再興したことで、村は冷害以前よりも栄えることとなった。村長を除き、突然農作物が豊かに実った訳を知る村人はいなかった。

豊穡をもたらす邪神の力に魅入られた村長は、曲がりくねる大樹のごとき偶像から、枉様と呼んであがめるようになった。そして、枉様への信仰を村に定着させるべく、これまで

Introduction

1. はじめに

このシナリオは“新クトゥルフ神話TRPGルールブック”(以下“ルールブック”)と“新クトゥルフ神話TRPG マレウス・モンスターロム Vol.1 クリーチャー編”(以下“クリーチャー編”)に対応し、探索者2~3人向けにデザインされている。プレイ時間は探索者の作成時間を含まずに3~4時間だろう。

信仰されていた蚕の神と表面上は同一に扱い、公にまつり上げた。一方で、生け贄をささげるなどの後ろ暗い行ないは村長とその親族以外の者には秘匿された。

結果、村人たちの信仰は枉様へと集中し、信仰を失った旧き蚕の神は村から去ることを余儀なくされた。

その後、村の養蚕業は最盛期を迎える。同時に枉様への信仰も過熱し、枉様からの祝福を受け、シュブ＝ニグラスの子となる者たちも現れた。彼らは「枉人」と呼ばれ、公には姿を現さない神職として崇敬の念を集めた。

しかし、太平洋戦争を経て、戦災や化学繊維の普及によって養蚕業が大きく衰退すると、枉様への信仰も下火になっていった。信仰を先導していた村長の死も、信仰心の低下に拍車をかけた。

現在の村では、枉様は蚕の神として知られているものの、ほとんどの村人から信仰心は失われている。

それでもわずかながら、枉様を信仰する者たちは今も村に潜んでいる。彼らは枉様の完全なる顕現のためにひそかに儀式を行ない、人間を含む動物の新鮮な血肉を贄としてささげ続けているのだ。

万物の生死をゆがめる邪神が現世に根を下ろすまで、残された時間は少ない。

Investigator Information

3. プレイヤー向け情報

実咲市について

実咲市は東北地方某県にある地方都市だ。

市街地は近年発展傾向にあり、その中心に位置する実咲駅に新幹線が開通し、停車駅となることが決定したことも発展を後押ししている。一方で、山地の集中する西部は発展が遅れており、限界自治体となる村も増えている。

実咲駅の周囲では開発が進んでおり、新幹線の開通に先立ち、広場や駐車場などの比較的小規模な施設が一新されている。探索者が奏太と待ち合わせをしている場所は、新設された広場の噴水前である。

奏太について

友人である探索者は、「4. 主なNPC」に記載された奏太の情報のうち、「背景」を除くものを知っているだろう。

NPCs

4. 主なNPC

星奏太

実咲市在住の青年。「S区の裏飯屋」という名義で、心霊スポットなどの奇妙ないわれのある場所を調査し、動画を投稿するネットタレントでもある。通称は「Sさん」。性格は陽気であり、リアクションが動画映えするとのことで、最近人気伸びつつある。ただ、うかつな言動も見られるため、一部の視聴者からはいつか炎上しそうだと危惧されている。

髪を金に染め、耳にリング状のピアスを着けているため、初対面の人からは怖がられることが多い。

背景

SNS上で調査してほしい場所を視聴者から募集したところ、気になる文言が奏太の目に留まる。それは彼が住む実咲市内にある「マガリヤド」という場所に関する情報だった。メッセージの送り主である「カシマアヤ」との連絡を通じ、マガリヤドが平渡村の山中にあることを把握した奏太は、現地に向かうことにした。

平渡村を訪れた奏太は、村にある神社の鳥居前で、情報提供者であるカシマアヤと集合する予定だった。しかし、集合するまで時間の余裕があった奏太は、先に見に行き、より質の高い動画を撮ろうとした。

動画を撮影しながら山中を進んでいった奏太は、マガリヤドとされる養蚕小屋の前で、枉人たちの姿を目撃する。奏太はとっさに逃げ出すものの、焦りからひとりりで転倒してしまい、捕まってしまう。

マガリヤドに閉じ込められた奏太は、どうにか誰かに連絡を取ろうと、枉人の監視が一瞬離れた隙に、捕まる直前まで撮影していた動画と簡単な文言をメールで送信した。

それらの送り先は、待ち合わせの予定があった探索者の一人であった。

星奏太 (24歳)、動画投稿者

STR 50 CON 55 SIZ 60 DEX 65 INT 60
APP 45 POW 50 EDU 70 耐久力 11

DB: +0 ヒルド: 0 移動: 8

技能: 言いくめ 50%、オカルト 70%、近接戦闘 (格闘) 40%、芸術/製作 (動画撮影) 60%、芸術/製作 (動画編集) 60%、コンピューター 60%、心理学 30%

鹿島綾

平渡村に住む少女であり、両親や祖父母と暮らしているが、関係は良好とは言えない。加えて、村での暮らしに対する閉塞感、プライバシーのなさに嫌気が差しており、早く村を出て一人暮らしがしたいと考えている。

Sさん (奏太) のファンであり、彼にマガリヤドの情報を提供したカシマアヤその人。

彼女は、私情に口を挟む大人たちへの反発心から、彼らが秘密にしていることを逆に暴こうとしていた。その過程で、マガリヤドなる養蚕小屋の存在を知ったものの、それがあるという山奥に一人で乗り込む勇気はなかった。

そんな折、奏太が調査場所の募集を始めたことを知った彼女は、奏太とマガリヤドと一緒に調査できる可能性に期待を抱き、奏太にマガリヤドの情報を伝えた。これを契機に、マガリヤドに興味を持った奏太とのやりとりが始まり、奏太との調査が実現した。

しかし、調査当日。予定の時間になっても集合場所に奏太は現れなかった。大いに落胆しつつも、気合を入れて準備をしていた彼女は、覚悟を決めて単身でマガリヤドに向かうことにした。目的地にたどり着いた彼女は、そこで、枉人に捕われた奏太たちの姿を目撃する。予想だにしない事態に思わず声を出してしまった彼女は、付近にいた枉人たちに見つかってしまい、その場から必死になって離れた。

追いかけてくる枉人たちから何とか逃げおおせたものの、耐え難い恐怖から狂気に陥ってしまった彼女は、村にある廃

校舎の理科室で、おびえながら身を隠している。

鹿島綾 (16歳)、フリーター

STR 40 CON 60 SIZ 40 DEX 60 INT 50
APP 60 POW 50 EDU 35 耐久力 10
DB: -1 ビルド: -1 移動: 8 MP: 10
技能: 回避 60%、手さばき 60%、目星 60%

まがりびと

枉人、シュブ＝ニグラスの子

枉人はシュブ＝ニグラスの子であり、枉様の完全なる顕現をもくろんでいる。

元は枉様を信仰する人間であったが、枉様から祝福を受ける、もしくはシュブ＝ニグラスの子のさを体内に摂取した結果、変貌を遂げた。

枉人という名は枉様の奉仕者である神職として公に知られている一方、真の正体を知る者は限られている。

神話存在としての詳細は“クリーチャー編”84ページの「シュブ＝ニグラスの子」を参照。能力値は平均値を用いること。

Get Starting

5. シナリオの導入

探索者たちは奏太との待ち合わせのため、実咲駅前広場にある噴水の前で集合している。朝9時までに集まる予定だったが、肝心の奏太だけが時間になっても一向に来る気配がない。

探索者が奏太に連絡しようとしたところで、探索者の一人に奏太からメールが送られてくる。メールの本文には「ひらわたりむら たすけて」とあり、約2分の動画が添付されている。動画を再生すると、以下のような内容が確認できる。

木々の立ち並ぶ山中。地面は落ち葉で埋め尽くされている。枝葉の隙間から見える空の色はうっすらと明るい。動画の冒頭から30秒ほど、野鳥の鳴き声、撮影者の小さな息遣い、落ち葉を踏みしめる音が続く。

突如として、抑揚のない声が遠方から聞こえてくる。撮影者も気づいたのか、カメラを周囲に向ける。ちょうど撮影者の左方、50mほど離れた場所にある廃屋から聞こえてくるらしく、視点がそちらに固定される。

ピンクが合うと、廃屋の前にうごめく影が鮮明に映る。影の正体は、木の枝がよれてできたかのようなヒト型の怪物だった。

怪物を目の当たりにした撮影者は短い悲鳴を漏らし、急いできびすを返す。その声から、撮影者が奏太であることがわかる。奏太が走り出したのと同時に、背後から落ち葉を踏み音が急速に近づいてくる。恐怖に耐えきれなくなったのか、奏太が叫び声を上げた直後、鈍い音とともに映像が暗転する。数秒後、動画の再生は終了する。

この動画を見た探索者は0/1D3正気度ポイントを失う。動画を見た探索者がメールに返信しても、電話をかけても、

奏太との連絡は通じない。

「ひらわたりむら」の調査

「ひらわたりむら」についてインターネットなどで調べると、実咲市西部の山間にある「平渡村」が検索候補に表示される。

平渡村の人口は1,000人ほどで、その50%近くが高齢者であり、将来的に限界集落となることが危ぶまれている。

かつては養蚕業で栄えており、養蚕に適した家屋などが現存しているが、養蚕を続けている家は片手で数えるほどしかない。現在は農業が産業の中心である一方、林業の衰退が著しく、管理を放棄された森林が拡大しつつある。

奏太の各種アカウントの確認

奏太がネットタレントであることを知る探索者は、動画投稿サイトやSNSなどの彼のアカウントから直近の様子を確認しようとするかもしれない。

奏太のアカウントは、いずれも3日前から更新が途絶えている。最新の投稿は、SNSにおける「カシマアヤ」という名前のアカウントとのやりとりである。動画のネタになる調査場所を募集する奏太に対し、カシマアヤは「実咲市の『マガリヤド』について調べてほしい」とリクエストしている。奏太は個人間のチャットで詳しく話を聞きたいという旨の返信をしている。以降のやりとりはチャットで行なわれたようだが、その内容は当事者の2人以外には公開されず、第三者である探索者は確認できない。

カシマアヤのアカウントを調べると、奏太とのやりとり以外に投稿は1件しかされていない。その投稿の文言は、「まがりさま、まがりさまって、みんなうるさいなあ」というものだ。「まがりさま」については、インターネット上はおろか、市内の図書館でも一切情報が見つからない。

警察への通報

探索者は、奏太が危険な状況にあると考え、警察に通報するかもしれない。

しかし、通報に応じた警察官の反応は探索者の期待に沿うものではない。被害の有無も内容も明確には判断できず、事態の真偽がわからない以上、責任を負って捜査することが難しいと返答される。

奏太が平渡村にいたと思われることを伝えれば、平渡村にある駐在所に連絡してくれる。ただ、駐在する警察官がなぜか電話に出ない。警察官は、何か返信や進展があれば後日改めて連絡すると話し、その場での対応を締め切る。

Hirawatari village

6. 平渡村

市の中心部から平渡村までの移動時間は、自動車でも50分ほどだ。公共交通機関は通っていない。

市街地を抜けたのち、山を切り開いて作られた起伏の多い坂道を数十分間進んでいくと、急に左右の視界が開け、黄金色に色づく田園風景が探索者の眼前に広がる。平渡村に到着したのだ。

田畑に挟まれた狭い村道を道なりに進むと、道路脇の側溝

の中で立ち尽くす、作業着姿の老齢の女性を発見する。どうやら農作業中に誤って側溝に落ちてしまい、身動きが取れなくなってしまったようだ。

この女性の救助は難しいものではなく、探索者が協力すれば道路に引っ張り上げることができる。女性にけがはないが、長時間立ったままだったため体力がかなり奪われており、自力で家まで帰ることが難しい。女性は礼を言ったのちに、申し訳なさそうな顔をしながら、自宅まで送ってほしいと探索者に頼む。探索者が了承すると、彼女は「鹿島ハナ」と名乗り、「かしまし喫茶」という喫茶店の隣に自宅があると話してくる。

かしまし喫茶は村の西にある大通りに面しており、店の前に置かれた何枚もののぼり旗が目印になっている。ハナの案内もあり、探索者たちは目的地へと滞りなく到着できる。

Kashimashi Coffee Shop

7. かしまし喫茶

鹿島ハナの娘である鹿島葉が営む「かしまし喫茶」は、村唯一の喫茶店である。一見すると大きな蔵のようにも見える店舗は、築100年を優に超える養蚕小屋を改装したものであり、1階が喫茶店、2階が物置として利用されている。

店先に着いた探索者は、喫茶店前の花壇の手入れをしている葉の姿を捉える。葉は、探索者に付き添われるハナの様子を見ると、急いで駆け寄ってくる。

探索者がハナを助けたことを知ると、葉は深く感謝し、妹にハナの世話を任せたのち、コーヒーや羊羹を用意し、かしまし喫茶の店内でもてなそうとする。

葉との会話を通し、探索者は以下の情報を得ることができる。葉が探索者に対し、村にきた理由を聞く場面から会話を始めるとスムーズに進行できるかもしれない。

奏太について

探索者が奏太を探していることを知ると、葉は心当たりがあるとして、以下のことを話す。

- 開店準備をしている最中、店の前にある道路を見知らぬ青年が歩いていくのを見た。青年は短い金髪で、耳に輪っかをつけていて、首からカメラを提げていた（これらの特徴は探索者の知る奏太の容貌と違わない）。
- 何かの撮影をしていたらしく、邪魔しちゃいけないと思い、声はかけなかった。ただ、村の北にある神社に続く道を歩いていくのは見えた。もしかしたら、神社に何か用があったのかもしれない。

神社について

- 村の北にある神社は「蚕臥神社」といい、「枉様」という蚕の神様をまつている。
- 昔、村では養蚕が盛んに行なわれていた。この喫茶店の建物も、もともとは養蚕小屋として使われていたものだ。
- ちょうど今、神社では神事の準備をしている。昔から神事は非公開放だから、私含めて村のほとんどの人は神事について詳しく知らない。
- 枉様についても、蚕の神様であること、「枉人」という神

職がいることくらいしか私は知らない。もう村では蚕を育てている人はほとんどいないし、昔からそういうものだとは思ってなかった。

カシマアヤについて

葉にカシマアヤの話題を出すと、葉は娘である鹿島綾に関わることだと考え、あきれた様子で愚痴をこぼす。

- 綾は反抗期真っただ中で、近頃は会話すらない。以前、村の人たちにも突っかった時はもう大変だった。
- 高校にも通わず、アルバイトで内職をしているらしい。家には一銭も入れないし、本当に働いているのかもわからない。綾の部屋から別人の声が聞こえると思ったら、ネット上の動画を見てだらけている時もあった。
- 困ったことに、綾は数日前から家出している。近所の人から、蚕臥神社や「旧平渡分校」の辺りをうろついていたと聞いた。ただ、店の営業や義母の世話で手いっぱい、探すのに手が回らない。

探索者がカシマアヤについて知らない、あるいは尋ねない場合、キーパーは「綾を探してほしい」という依頼を葉から持ちかける形で情報を渡してもよい。

葉は、もし探索者が綾を見つけたら、彼女に早く帰るように伝えてほしいと頼む。了承すれば、顔がわかるようにと、探索者に綾が写った家族写真を見せてくれる。

家族写真はかしまし喫茶を背景に撮られたものであり、その隅に白いパーカーを着用した綾の姿が確認できる。その表情はどこか不満げで、視線はカメラから外れている。

Former School House

8. 旧平渡分校

鹿島綾の目撃情報を得た探索者は、手掛かりを求めて旧平渡分校に向かうかもしれない。

1993年に閉校した旧平渡分校の校舎は、平渡村の東にある台地の上に現在も残っている。短く緩やかな坂を上り、雑草が繁茂する運動場を越えると、木造2階建ての廃校舎が探索者を出迎える。

屋外から廃校舎を観察すれば、2階のとある部屋の窓全体に新聞紙が張られていることに気づく。まるでその部屋の中に隠したいものがあるように。

廃校舎の中に入り、腐りかけた床に注意しながら歩いていくと、くだんの部屋の前まで行くことができる。廊下に面した窓にも新聞紙が張られており、室内の様子は確認できない。戸の建て付けはかなり悪いが、強引に開けられる。

室内には黒い天板の長机、実験器具や試料の収納棚が並んでおり、元は理科室であったことがわかる。部屋の隅には、乾いた血と泥にまみれた服を着た少女が、膝を抱えて座っている。葉から綾の写真を見せてもらった探索者は、眼前の少女の顔が綾と同じことに気づく。

少女は教室に入ってきた探索者を見るなり、ひどくおびえながら「来ないで!」と叫び、手に持った鎌を向ける。少女と話すには、〈精神分析〉が対人関係技能に成功し、彼女を落ち着かせなければならない。

探索者に害意がないことがわかったと、少女は自らを鹿島綾だと認めた上で探索者が何者なのか、どうしてこの場所に来たのかなど、ぼつぼつと疑問を投げかける。

探索者がSさん(奏太)の友人であり、彼を探しに来たことを知ると、綾はこれまでの事情を説明する。

- プライバシーのない村の雰囲気というか、それを強要する大人たちと反りが合わなくて、逆に皆の隠し事を暴いてやろうと思った。その一つが、「マガリヤド」という場所についてのことだった。
- 盗み聞きした話だと、公開されていない神社の神事に関わる場所ようだった。調べるうちに大まかな場所もわかったけど、かなりの山奥で、独りで行くとなるとどうしても勇気が出なかった。
- ちょうどその時、Sさん(奏太)が調査してほしい場所の情報をSNSで募集していた。試し半分でマガリヤドのことを伝えたいけれど、本当に来てくれるとは思ってなかった。
- Sさんと連絡を取って、一緒にマガリヤドに行く予定だった。けれど、時間になってもSさんは来なくて、結局自分だけで行くことにした。
- マガリヤドは、とても古い養蚕小屋だった。中から何人もの声がしたので、こっそり中をのぞくと、木の化け物が何体もいて、そばにはSさんや駐在さん含めて10人くらいが捕まっていた。アイツらはSさんたちを生け簀と呼んでいて、もうすぐ儀式を始めるとか言っていた。
- 怖くて、びっくりして、思わず声が出てしまった。アイツらに気づかれて追われたけど、何とかここまで逃げられた。いつの間にか、泥だらけ、血だらけになっていた。
- 元はと言えば、私のせいでSさんが捕まってしまった。巻き込んでしまって、ごめんなさい。

ひととおり話し終えると、綾は奏太を助けに行く決心を固め、外へ出ていこうとする。探索者が彼女と行動を共にするか否かは自由に決めてよい。

綾にここにとどまるよう告げるのであれば、彼女は淡るようなそぶりを見せるが、探索者が対人関係技能に成功した上で適切な言葉をかければ、引き下がる。

また、長机の上には古びた紙束と地図が置かれている。

古びた紙束

表紙には達筆な筆字で『蠶談(上)』と記されている。表紙含めて10枚の和紙がほつれかけのひもで留められており、2枚目以降に書かれた文章は、たどたどしい話し言葉を文字に起こしたかのような文体である。これを正しく読み解くには、〈母国語(日本語)〉ロールに成功しなければならない。

大まかな内容は以下のとおりだ。

- 1963年、神降ろしに応じた蚕神が、蚕臥神社の端女(はしため、召使い)の体を借り、『蠶談』を記した。
- 冷害のただ中、平渡の長は「枉」^{まがり}という客神を招いた。枉は外法をもって豊穰をもたらしたが、見返りとして枉は代償を求めた。
- 主神であった蚕神は枉と習合され、主神の主体はいつし

か枉へと変化した。

- かわいそうなのは、何も知らない者たちだ。気づかぬ間に信ずるものが変わり、いつか誰かが代償を負うのだから。
- 代償を負った者は、「枉人」なる者となり、生のすべてを枉にささげる木の怪異へと成り果てる。なんと痛ましい。
- 枉にはほかにも数多くの下僕が存在する。巨木のごとき現世への使者は、連なる石を礎とする儀式により現れ、枉人よりささげられし生け簀を枉に受け渡す。数多の簀が蓄えられた時、枉は完全なる顕現を果たし、厄災がもたらされる。
- 信仰が失われた平渡の地に蚕神が降りることは二度とない。いくつかの分霊を遺し、冥土に還ることとする。

そして、最後の1ページには、『かかり』という呪文に関する記述がある。《かかり》の習得は自動的に成功する。

落ち着いた綾に『蠶談(上)』について問えば、彼女が蚕臥神社から無断で持ち出したものだが、うまく読めずに放ったらかしていたという。また、似たようなものが蚕臥神社に何冊あったことも話してくれる。

地図

地図は村全体を示したものであり、山中のとある箇所^{のこ}に円と「マガリヤド」の字が赤ペンで記されている。この地図を見るか、落ち着いた綾に聞けば、マガリヤドの場所が把握できる。

Koga Shrine 9. 蚕臥神社

蚕臥神社は村の北にある小高い山の中腹に位置している。境内にたどり着くには、麓にある鳥居をくぐり、狭い石段を5分ほど上る必要がある。

石段を上り切った探索者は、異様な境内の様子を目の当たりにする。

社務所^{てみずや}や手水舎などは倒壊し、石張りの参道には数多くの大きなヒビが走り、参道の先にある社殿はうっそうと茂る鎮

新しい呪文：《かかり》

コスト：2マジック・ポイント、1D2正気度ポイント

必要時間：瞬時

「蚕^この^{かん}惟^は神^{がら}、守^{たま}り給え」と唱えることで、術者の片手に蚕神の分霊が宿る。術者の耐久力が減少した場合、一度だけ減少するポイントを0にすることができる。そうした場合、分霊は術者から離れ、二度と宿ることはない。人間1人に宿る分霊は1つのみだ。

この呪文のキャストイング・ロールのプッシュに失敗した場合、消費する各ポイントの値は2倍になる。

守の森に侵食されている。辺りは暗く、重苦しい静寂に包まれており、神事の準備が行なわれている様子はない。

社殿

社殿は出入口のある拝殿と、その奥に続く本殿から構成されている。

拝殿に入った探索者は、乾いた血の海の中で伏した、干からびた男性の遺体を発見する。腹部には灰黄色の石らしきものがいくつも詰め込まれており、そこから無数の枝が遺体に絡みつくように伸びている。見るも無残な遺体を発見した探索者は1/1D4正気度ポイントを失う。

枝の正体は成長途中のシュベニグラスの子であり、石らしきものはそのさやだ。遺体は枉様の狂信者である村の男性のものであり、彼は自ら望んで子の宿主となった。本来であれば、人間の血肉を糧に子が成長するのだが、1人に複数のさやが植えられたことで栄養が十分に吸収されず、子はすべて枯死してしまった。

遺体を観察した探索者が〈目星〉に成功すると、服の内ポケットから小さく折り畳まれたメモ用紙を見つける。破らないように慎重に開けば、「儀式、贅の数、要8人」という記述が確認できる。

拝殿と本殿は天井から降ろされた鯨幕によって隔てられている。

鯨幕を除けて本殿に踏み入った探索者は、正面に鎮座する御神体と対面する。御神体は大きな木像であり、横たわる蚕の体から大樹が伸びるさまを表している。INTロールに成功した探索者は、木像に表された神とは、蚕ではなく大樹のほうなのではないかと考えていた。

〈聞き耳〉に成功すると、木像を支える台座の下から、粘着質の何かが動くような音が聞こえる。

台座の下をのぞけば、糸を引く白い粘液にまみれたさやがいくつもあり、その一つから伸びたつたが身をくねらせている。これを目撃した探索者は0/1正気度ポイントを失う。

台座と床の隙間の奥、うごめくつたの向こうにはボロボロになった紙束がある。『蠶談(上)』を見た探索者であれば、類似した書物であることがわかる。

紙束を入手するには、〈手さばき〉やDEXロールなどに成功し、動き続けるつたを避けて慎重に取り出さなければならない。失敗した場合、むちのようにしなるつたに勢よく弾かれ、1D3ポイントのダメージを受ける。合計3回ロールに失敗した場合、物理的に刺激を受けたこと、十分な血を吸ったことすべてのさやが一斉に発芽し、急速に生長する。DEXロールに成功すれば間髪に社殿の外に逃れられるが、失敗した者は巨大なつたによって屋外に弾き飛ばされ、耐久力を1D3ポイント失う。つたは瞬間に社殿を覆いつくしたのち、生長を止める。

紙束は『蠶談』の下巻の一部であり、『蠶談(上)』と同様の文体で記されている。すでに『蠶談(上)』を解説している者は、自動的に解説できる。

『蠶談(下)』

この書物には複数の呪文が記されていたようだが、汚損がひどく、十分な記述が残っているのは《さわり》のみだ。

新しい呪文：《さわり》

コスト：4マジック・ポイント、1D4正気度ポイント

必要時間：瞬時

《かかり》により蚕神の分霊を宿した手で対象に触れ、「蚕の^{はら}惟神、祓え給え」と唱えることで、分霊を強制的に対象へと移す。対象が術者か蚕神にあだなす存在であれば、分霊は対象の肉体を操り、自傷や敵対するほかの存在への攻撃を行なう。この憑依は半永久的に続く。

呪文を唱え終えた術者に、分霊は二度と宿らない。

この呪文のキャストイング・ロールのブッシュに失敗した場合、消費する各ポイントの値は2倍になる。

Various Investigations 10. さまざまな調査

駐在所

平渡村の駐在所は、村の南部に集中する民家群からほど近い場所にある。

駐在所の扉は開いているが、中には誰もいない。受付台には「現在、見回り中」と書かれたホワイトボードが置かれている。また、台の下にはメモ帳が落ちており、「鹿島綾捜索中、神社付近、不審火?」と記されている。

これは先日、駐在所の警察官が見回り中に目撃した光景を記録したものだ。彼が捉えた不審火は、枉様に贅をささげる前回の儀式の際に生じたものだ。

現在、駐在所の警察官は枉人たちに捕らわれている。口封じも兼ね、奏太らと共に生け贅に選ばれたのだ。

村人への聞き込み

村人への聞き込みで得られる情報は、「かしまし喫茶」での葉との会話から得られるものとほぼ変わらない。

キーパーは、探索者が獲得しそびれた情報を入手する機会として提示するとよいだろう。

Magariyado 11. マガリヤド

マガリヤドには、蚕臥神社の鳥居の付近にある獣道から行くことができる。旧平渡分校で入手した地図や綾からの情報を頼りに30分ほど進んでいくと、山中にひっそりたたずむ、古びた養蚕小屋が発見できる。この養蚕小屋こそがマガリヤドだ。

また、探索者たちが今いる場所が、奏太から送られてきた動画に映っていた場所と非常に似ていることにも気づく。

奇妙なことに、半ば自然に還りつつあるこの建物は、まる

であめ細工のように外壁がねじ曲がっており、見ているだけで目が回るような感覚に襲われる。この建物を見た探索者は0/1正気度ポイントを失う。綾が同行していれば、以前来た時にはこのような状態ではなかったと話す。

探索者は戸の外れた土間から、マガリヤドの中に入ることができる。

2階以上の部分は外壁のみが残っていない一方で、1階は探索できる程度には構造が残っている。外観と打って変わって、不自然に曲がっているような様子はない。

1階は1つの大部屋のような構造をしており、床のあちこちに養蚕道具の残骸が散らばっている。それらに交じり、部屋の中央には手記が落ちている。最後に記述されたページを開いて見ると、「いどをみてくれ バケモノどもがいったりきたりして みんなあっちにつれていかれた たすけて しにたくない」という走り書きが確認できる。

この手帳は、枉人によってマガリヤドに監禁されていた犠牲者が所有していたものだ。

室内をよく調べると、部屋の一角の床板が、周囲よりもわずかに浮いていることがわかる。床板を剥がしてみると、地面に埋まりかけた石造りの枯れ井戸があらわになる。枯れ井戸の中をのぞくと、奇妙なことに、背の高い草木を地面から見上げたような視点の光景を見ることができる。

井戸は「門」(“新クトルッフ神話TRPG ルールブック”257ページの「門の呪文」を参照)として機能しており、枉人が儀式を行なう場所の付近に存在するもう1つの枯れ井戸へと通じている。探索者が見た光景は、門を通して向こう側の様子をのぞいたことを示している。

この門を通るには1マジック・ポイントを消費しなければならない。

Magarimagarare 12. まがりまがられ

門を通過した探索者たちは、その先にあるもう一つの枯れ井戸から這い出ることとなる。

この枯れ井戸がある場所はマガリヤドか5kmほど離れた山中だ。〈自然〉やINTロールなどに成功すれば、周囲の草木の種類や風景がマガリヤドの付近にあるものとさほど変わらないことから、極端に遠い距離を移動したわけではないと理解できる。

状況を確認している探索者たちの耳に、どこからか抑揚のない歌声が届く。次第に、鼻を突くような血の臭いと息も詰まるような圧迫感が周りに満ちていく。

警戒を抱きつつ、歌声の聞こえる方向へと歩を進めた探索者は、衝撃的な光景を目の当たりにする。

木々がまばらに生えた浅い窪地に、人の背丈を優に超える環状列石が立ち並んでおり、それらを取り囲む数人の人間と木の怪物、すなわち枉人たちが、両手を合わせて祈りをささげている。

少し離れた位置にある大木の根元には、生け贅に選ばれた者たちが縛られており、中には奏太の姿も見られる。

探索者が何かしら行動を起こそうとした次の瞬間、環状列石から高い火の手が上がり、直上の空間に黒々とした次元の

裂け目が生じる。そして、その向こう側から、緑色の粘液をまとう巨大な触手が幾本も這い出して来る。

生け贅と崇拝をささげる神の使者が現れたことに枉人たちは狂喜し、皆一斉に叫ぶ!

木の惟神、まがり給え、まがられ給え!

おぞましき儀式の開幕を目の当たりにした探索者たちは1D3/1D10正気度ポイントを失う。

この状況下で探索者が取ることのできる行動は、儀式を妨害するか、生け贅となった人々を救出するか、あるいはこの場から逃走するかだ。

探索者が取りたい行動を選択したのち、キーパーは戦闘ラウンドの開始を告げる。各ラウンドの終了時、生け贅は次元の裂け目から伸びる触手によって1人ずつ虚空へとさらわれる。奏太がさらわれる順番は最後だ。

キーパーは以下の項を参照し、処理を進めること。

儀式の妨害

蚕神の分霊を宿し、《さわり》を習得している探索者は、儀式を妨害する機会を有している。

INTロールに成功した探索者は、『蠶談(上)』の内容を思い出し、環状列石こそが礎であり、破壊することで儀式を妨害できるのではないか、と思いいたる。そして、礎を一度に破壊できるほどの力を持つ存在が、次元の裂け目から伸びる触手以外に、この場にいないことも判断できる。

儀式の妨害には、1ラウンド中に1人1回挑戦可能な、以下の一連のロールにすべて成功する必要がある。

触手に触れて《さわり》を唱えるには、まず環状列石を取り囲む枉人たちの間を通り抜けなければならない。〈回避〉やDEXロールなどに成功すれば、触手に接近できる。失敗した場合、枉人の1体に進路を阻まれ、1D3ダメージを受けて後退させられる。

続いて、探索者が触手に触れるためには、触手との〈近接戦闘〉による対抗ロールを行ない、同じく、より高いレベルの成功度を出す必要がある。触手の〈近接戦闘〉の技能値は50%であり、探索者が敗北した場合は1D6ポイントのダメージを受けて後退させられる。

後退した探索者は、次のラウンドの手番から、これらのロールを再度試みることができる。なお、環状列石の付近にいる枉人たちや触手は、上記のロールにおける行動や応戦を除けば、探索者を能動的に攻撃することはない。

生け贅の救出

奏太を含め、枉人に捕らわれた人間は計10人いる。蚕臥神社の遺体から入手したメモ用紙の記述を確認していれば、枉人たちが必要とする生け贅の数は8人以上だとわかる。つまり、3人以上の生け贅を救出できれば、今回の儀式は達成されない。

生け贅のそばには1体の枉人がおり、近くにいる探索者に攻撃を仕掛ける。

生け贅の救出には、彼らを木に縛り付けているつたを切る必要がある。時間をかけずに切断するには〈近接戦闘〉などのロールに成功しなければならない。失敗した場合は切断に1ラウンドかかる。切断している最中は回避や応戦はできず、

枉人による攻撃が命中した場合はやり直しとなる。1回のロールで拘束を解けるのは1人までだ。

逃走

生け贄を1人以上解放している場合、枉人の1体が探索者たちを追跡する。

探索者たちが枉人を振り切り、この場から離れる方法は主に2つある。

1つ目は、マガリヤドへと続く井戸の門を通過する方法だ。門を通過するには、来たときと同様、1マジック・ポイントが必要となる。

2つ目は、井戸を使わずに山を走り降りる方法だ。旧平渡分校で入手した地図やGPS機能の付いた機器が移動の助けになるだろう。

これらの方法による逃走を成功させる上で、探索者たちは以下のような困難と直面する。

■ **空間の歪曲**：儀式により次元の裂け目が生じたことで、周囲の空間にゆがみが生じている。特に井戸の周辺では、門と裂け目が相互に強く干渉し合い、より大きなゆがみが現れている。

井戸へとたどり着くには〈ナビゲート〉などに成功し、最適な移動ルートを発見する必要がある。

■ **地形の隆起と沈降**：儀式の余波により、おびただしい数の倒木や広範囲に及ぶ地面の激しい起伏が山中では生じている。

これらをスムーズに乗り越えるには、〈登攀〉や〈跳躍〉などに成功する必要がある。

いずれかの技能ロールに成功すれば、これらの困難を逆に利用して枉人から大きな距離を取り、逃走を成し遂げられる。

ただし、救出された人々は探索者たちの誘導がなければ逃げるができない。探索者1人が1回のロールで誘導できるのは最大3人であり、追加で1回のロールに成功する必要がある。

失敗した場合、枉人との距離を十分に離すことができず、攻撃の対象となる可能性が残る。

なお、一度逃走に成功した探索者が再度戻るとは現実的ではない。周囲の環境は絶え間なく変化し続けているため、十分な距離を取ったあとに、再度同じ場所にたどり着くことは非常に困難だからだ。

The Conclusion

13. 結末

触手に対する《さわり》に成功すると、蛭神の分霊に憑依された触手がのたうち回り、環状列石を枉人たちごとなぎ倒していく。そして、それらすべてを次元の裂け目へと引きずり込むと、力尽きたように自らもその深淵へと落下していく。

次元の裂け目は次第にふさがっていき、先の戦いの熱を取るかのように、冷たく、しかし穏やかな静寂が探索者たちを包み込んでいく。

救出された奏太たちは、病院へと担ぎ込まれ、すぐさま入

院治療を受けることになる。彼らは心身に衰弱が見られるものの、命に別状はない。

奏太はしばらくネットタレントの活動を休止する。活動中に起きた今回の件で、心に小さくない傷を負ったためだ。友人である探索者のサポートや、綾を含めたファンからの応援があれば、徐々に精神的に立ち直り、そう遠くないうちに活動を再開するだろう。

駐在する警察官が巻き込まれたこともあり、村には警察による捜査の手が入る。しかし、被疑者が一人残らずいなくなったこと、決定的な物証があまりにも少ないこと、そして、「恐ろしい怪物に襲われ、捕まっていた」という被害者たちの非現実的な証言への対応の難しさから、捜査は暗礁に乗り上げる。

結局、探索者たちが遭遇した神話的事象は集団での遭難として処理され、真相が明らかにされることはない。ただ、ネット上の掲示板などでは、「某ネットタレントが巻き込まれたらしい不可解な事件」などと銘打たれ、それらにまつわるうわさや推測が細々と語られることとなる。

儀式中、生け贄が8人さらわれる、もしくは、生け贄を3人以上助けずに探索者たちが逃走し終えると、枉様の顕現が確定する。

顕現に伴い、より大規模な空間の歪曲と地形の変化が発生する。逃走を終えていない探索者は、土砂崩れに巻き込まれるか、周囲の空間ごと肉体がねじ曲がり、死亡する。

逃走し終えた探索者も、今にも顕現を遂げようとする枉様の全貌を一瞬だけ見てしまうかもしれない。目撃した探索者は1D5/1D50正気度ポイントを失う。

顕現を遂げた枉様は、枉人を連れて元いた次元へと帰還する。以降、現世との確固たるつながりを得た枉様は、日本各地に不定期に出現し、破壊と混乱をもたらしていく。

最終的にささげられた生け贄の数が8人未満である場合、今回の儀式では枉様は顕現しない。ただ、儀式が妨害されていないのであれば、別の場所で行なわれる次の儀式で不足分の贄がささげられ、顕現がなされる。この儀式が阻止されるか否かが語られるのは、また別の機会だろう。

枉人たちの儀式を完全に妨げ、枉様の顕現の芽を摘むことに成功した探索者は、1D8正気度ポイントを獲得する。奏太が生存していれば、追加で+1D6正気度ポイントを獲得する。

枉様の顕現が達成された場合、今後1年間で10万を超える人々が犠牲になる。顕現を阻止できなかった後悔、いつ自分が犠牲になるかもわからない恐怖から、探索者は1D4/1D10+3正気度ポイントを失う。